Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォガイド

2023.8.28-9.3

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

28日　月曜

使徒

27:27 十四日目の夜になり、私たちはアドリア海を漂っていた。真夜中ごろ、水夫たちはどこかの陸地に近づいているのではないかと思った。
27:28 彼らが水の深さを測ってみると、二十オルギヤであることが分かった。少し進んでもう一度測ると、十五オルギヤであった。
27:29 どこかで暗礁に乗り上げるのではないかと恐れて、人々は船尾から錨を四つ投げ降ろし、夜が明けるのを待ちわびた。
27:30 ところが、水夫たちが船から逃げ出そうとして、船首から錨を降ろすように見せかけ、小舟を海に降ろしていたので、
27:31 パウロは百人隊長や兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助かりません」と言った。
27:32 そこで兵士たちは小舟の綱を切って、それが流れるままにした。
27:33 夜が明けかけたころ、パウロは一同に食事をするように勧めて、こう言った。「今日で十四日、あなたがたはひたすら待ち続け、何も口に入れず、食べることなく過ごしてきました。
27:34 ですから、食事をするよう勧めます。これで、あなたがたは助かります。頭から髪の毛一本失われることはありません。」
27:35 こう言って、彼はパンを取り、一同の前で神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めた。
27:36 それで皆も元気づけられ、食事をした。
27:37 船にいた私たちは、合わせて二百七十六人であった。
27:38 十分に食べた後、人々は麦を海に投げ捨てて、船を軽くした。
27:39 夜が明けたとき、どこの陸地かよく分からなかったが、砂浜のある入江が目に留まったので、できればそこに船を乗り入れようということになった。
27:40 錨を切って海に捨て、同時に舵の綱を解き、吹く風に船首の帆を上げて、砂浜に向かって進んで行った。
27:41 ところが、二つの潮流に挟まれた浅瀬に乗り上げて、船を座礁させてしまった。船首はめり込んで動かなくなり、船尾は激しい波によって壊れ始めた。
27:42 兵士たちは、囚人たちがだれも泳いで逃げないように、殺してしまおうと図った。
27:43 しかし、百人隊長はパウロを助けたいと思い、彼らの計画を制止して、泳げる者たちがまず海に飛び込んで陸に上がり、
27:44 残りの者たちは、板切れや、船にある何かにつかまって行くように命じた。こうして、全員が無事に陸に上がった。

パウロは百人隊長から尊敬されるようになりました。またその信仰ゆえに乗組員たちをも励まして、みなの生存のために最善の道を示しました。

クリスチャンはその神様からの使命ゆえに、この世の不信者の人々の中にあっても、指導的な働きをすることがあります。それはあくまでも、自分が尊敬されたいというような自己満足のためではなく、主の栄光のためです。

そのような状況に立たされることがあったなら、主のために、主に祈って聞きつつ、謙遜にしかし確信を持って手腕を発揮しましょう。

この世は社会的にはクリスチャンもノンクリスチャンも同じ環境で生きており、同じ苦難を味わうことがあります。世の人々が希望を失っている中で、主に従うクリスチャンはその使命ゆえに、確信と希望を持っています。それを人々に示しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

29日　火曜

使徒

28:1 こうして助かってから、私たちはこの
島がマルタと呼ばれていることを知った。
28:2 島の人々は私たちに非常に親切にしてく
れた。雨が降り出していて寒かったので、彼
らは火をたいて私たちみなを迎えてくれた。
28:3 パウロが枯れ枝を一抱え集めて火にくべ
ると、熱気のために一匹のまむしが這い出し
て来て、彼の手にかみついた。
28:4 島の人々は、この生き物がパウロの手に
ぶら下がっているのを見て、言い合った。
「この人はきっと人殺しだ。海からは救われ
たが、正義の女神はこの人を生かしておかな
いのだ。」
28:5 しかし、パウロはその生き物を火の中に
振り落として、何の害も受けなかった。
28:6 人々は、彼が今にも腫れ上がってくるか、
あるいは急に倒れて死ぬだろうと待っていた。
しかし、いくら待っても彼に何も変わった様
子が見えないので、考えを変えて、「この人
は神様だ」と言い出した。
28:7 さて、その場所の近くに、島の長官でプ
ブリウスという名の人の所有地があった。彼
は私たちを歓迎して、三日間親切にもてなし
てくれた。
28:8 たまたまプブリウスの父が、発熱と下痢
で苦しんで床についていた。パウロはその人
のところに行って、彼に手を置いて祈り、癒
やした。
28:9 このことがあってから、島にいたほかの
病人たちもやって来て、癒やしを受けた。
28:10 また人々は私たちに深い尊敬を表し、
私たちが船出するときには、必要な物を用意
してくれた。

Bible Reference 聖書の記述

ここでも主の守りがあり、パウロたちはもてなされましたが、思いがけずまむしにかまれることとなり、しかしまた主の守りがありました。さらには主の力によって癒しのわざが起こり、パウロたちはそれゆえに尊敬されて、航海の必要なものを用意立ててもらうことができました。

これまでと同じように、困難や壁にぶつかりながら、主によってそれを打開し前進するということの繰り替えしです。いったい同じようなことが何回起きるのかとさえ感じますが、それこそが主にある前進であり、また私たちの人生ではないでしょうか。

主から託された使命が重要なものであればあるほど、それは困難であり、またその重要性ゆえにサタンの妨げも大きいのです。私たちは善を行うのに飽いてはなりません。何度も何度も主によって解決をいただいて前進しましょう。

宣教、伝道、教会の働き、人を育てること、そして仕事や子育てなどなど…。同じことの繰り返しのようでも確実にパウロのように前進しているはずです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

30日　水曜

使徒

28:11 三か月後、私たちは、この島で冬を
越していたアレクサンドリアの船で出発した。
その船首にはディオスクロイの飾りが付いて
いた。
28:12 私たちはシラクサに寄港して、三日間
そこに滞在し、
28:13 そこから錨を上げて、レギオンに達し
た。一日たつと南風が吹き始めたので、二日
目にはプテオリに入港した。
28:14 その町で、私たちは兄弟たちを見つけ、
勧められるままに彼らのところに七日間滞在
した。こうして、私たちはローマにやって来
た。
28:15 ローマからは、私たちのことを聞いた
兄弟たちが、アピイ・フォルムとトレス・タ
ベルネまで、私たちを迎えに来てくれた。パ
ウロは彼らに会って、神に感謝し、勇気づけ
られた。
28:16 私たちがローマに入ったとき、パウロ
は、監視の兵士が付いてはいたが、一人で生
活することを許された。
28:17 三日後、パウロはユダヤ人のおもだっ
た人たちを呼び集めた。そして、彼らが集
まったとき、こう言った。「兄弟たち。私は、
民に対しても先祖の慣習に対しても、何一つ
背くことはしていないにもかかわらず、エル
サレムで囚人としてローマ人の手に渡されま
した。
28:18 彼らは私を取り調べましたが、私に死
に値する罪が何もなかったので、釈放しよう
と思いました。
28:19 ところが、ユダヤ人たちが反対したた
め、私は仕方なくカエサルに上訴しました。
自分の同胞を訴えようとしたわけではあり
ません。
28:20 そういうわけで、私はあなたがたに
会ってお話ししたいと願ったのです。私が
この鎖につながれているのは、イスラエル
の望みのためです。」
28:21 すると、彼らはパウロに言った。「私
たちは、あなたについて、ユダヤから何の
通知も受け取っていません。また、ここに
来た兄弟たちのだれかが、あなたについて
何か悪いことを告げたり、話したりしたこ
ともありません。
28:22 私たちは、あなたが考えておられるこ
とを、あなたから聞くのがよいと思ってい
ます。この宗派について、いたるところで
反対があるということを、私たちは耳にし
ていますから。」

Bible Reference 聖書の記述

パウロー行はでディオスクロイの飾りのある船で出帆しましたが、このデオスクロイはゼウスの双子の兄弟であり、その飾りがあるということは偶像のついた船に乗っていたということです。もちろん偶像のついた乗り物に乗るのは気持ちが良いものではありませんが、しかしそのようなものでも主によって用いられることは、考え方によっては痛快です。主がその御用のために選んだものであるなら、主の栄光のために豊かに用いていただきましょう。

レギオンはイタリア半島の南端、ポテオリは今のナポリ辺りです。すでにそこまでも福音は届いていて、クリスチャンとなった人々はパウロたちを励ましました。パウロ以前に宣教されていたのですが、それでもパウロがローマに福音を伝えたといわれます。実際彼はローマ人への手紙を書いて、福音の教理を明確にしたのです。

このように宣教、伝道は１人のヒーローがするものではありません。主ご自身が三位一体の共同体で存在しておられるように、その宣教のわざも共同体で進められるのです。謙遜に他のクリスチャンの助けを仰ぐ必要があります。

しかし一方パウロは、自分が行かなければならないという信念も持っていました。これもまた神の働きのすばらしさであって、人任せではなく自分がやろうという気持ちも重要なのです。今さら自分がやっても…とは思わずに、何か役に立てるはずだからと、実行することは大切です。それによって複数の人々が主の働きに立ち上がり、豊かさや確かさをもたらすことになったからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

31日　木曜

使徒

28:23 そこで彼らは日を定めて、さらに大勢でパウロの宿にやって来た。パウロは、神の国のことを証しし、モーセの律法と預言者たちの書からイエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた。
28:24 ある人たちは彼が語ることを受け入れたが、ほかの人たちは信じようとしなかった。
28:25 互いの意見が一致しないまま彼らが帰ろうとしたので、パウロは一言、次のように言った。「まさしく聖霊が、預言者イザヤを通して、あなたがたの先祖に語られたとおりです。
28:26 『この民のところに行って告げよ。あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。
28:27 この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らがその目で見ることも、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』
28:28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うことになります。」
28:29 【本節欠如】
28:30 パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、
28:31 少しもはばかることなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

創世記で人類の救いを宣言なさった神様は、イエス様の十字架によって救いの道を備え、さらにユダヤ人の救いと思われていたものを、異邦人すなわち全人類のものとされました。
そのために「聖霊が…臨むとき、あなたがたは力を受けます。…証人となります。」とイエス様が言われたとおりに、聖霊を注ぎ、それによって変えられた人々が、聖霊の働きによる救いを世界へと広めていったのです。
パウロはそのことを聖書の預言から確信し、神様の導きに従いローマまで来て、「大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた」のです。
神様の偉大なご計画とその御心に従った人々の壮大な歴史的事実です。
この書の終わりは何かまだ続きがあるような感じがします。その後のパウロはどうなったのか？またはそれぞれの教会はどうなったのか？などについては記されていません。
実は「使徒の働き」はまだ続いているのです。そしてその登場人物は私たちです。自分自身の人生や伝道のわざはどのように天の書に記されるでしょうか。自分自身が使徒の働きに記される一人であることを自覚しつつ歩みましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

1日　金曜

ヘブル

1:1 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、
1:2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。
1:3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。
1:4 御子が受け継いだ御名は、御使いたちの名よりもすばらしく、それだけ御使いよりもすぐれた方となられました。
1:5 神はいったい、どの御使いに向かって言われたでしょうか。「あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ」と。またさらに、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」と。
1:6 そのうえ、この長子をこの世界に送られたとき、神はこう言われました。「神のすべての御使いよ、彼にひれ伏せ。」
1:7 また、御使いについては、「神は御使いたちを風とし、仕える者たちを燃える炎とされる」と言われましたが、
1:8 御子については、こう言われました。「神よ。あなたの王座は世々限りなく、あなたの王国の杖は公正の杖。
1:9 あなたは義を愛し、不法を憎む。それゆえ、神よ、あなたの神は、喜びの油で、あなたに油を注がれた。あなたに並ぶだれよりも多く。」
1:10 またこう言われました。「主よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。
1:11 これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえられます。すべてのものは、衣のようにすり切れます。
1:12 あなたがそれらを外套のように巻き上げると、それらは衣のように取り替えられてしまいます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。」
1:13 いったいどの御使いに向かって、神はこう言われたでしょうか。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで」と。
1:14 御使いはみな、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになる人々に仕えるために遣わされているのではありませんか。

ヘブル人への手紙はヘブル人に書かれたものです。彼らは長い間救い主メシヤを待ち望み、またその準備段階としての律法・旧約の出来事・そして祭儀に精通していました。ですから彼らがイエスをメシヤと信じるためには、異邦人とは違った論点が必要です。この書ではそれゆえに、イエス様のメシヤ性がさらに明らかになっています。

「むかし先祖たちに、預言者たちを通して」というのは旧約聖書です。「終わりの時」とありますが、御子が救いを成し遂げたということは再臨も含めて「終わり」が近いということです。

「御子によって、私たちに語られました。」とあります。イエス様のみわざにはメッセージがあるということです。癒しと悪霊追い出しは神の国（支配）が始まったという意味であり、律法を全うしたその生涯は「完全な人であり、完全な神」を表し、そして神の愛を表し、さらには十字架で「神の義と愛」を表されたのです。イエス様こそがまさに、「神のロゴス（ことば）」であったということです。

「きょう、わたしがあなたを生んだ。」とありますが、そのバプテスマ以前にもイエス様は存在していたのですから、「キリストは神によって創造された」というのは間違いです。父なる神様は、聖霊によって地上でも完全な親子であることを表したのです。

イエス様は万物が創造される前から御父とともにおられた神です。そして「万物の相続者」、「神の栄光の輝き」、「罪のきよめを成し遂げて、…大いなる方の右の座に着かれ」た方です。このイエス様に覚えられ、愛され、親しく交わり、必要と助けをいただけるのがクリスチャンです。恵を感じて感謝し、喜びで生きましょう。

神である救い主、御子イエスをおとしめる教えも存在します。御子を神とせずに、人間や動物と同じく被造物とするものです。ある人は天使の一人と考えました。それは十字架を無効にするだけでなく、神の愛を歪んだものにします。すなわち、神は「罪の身代わり」といいながら、それを自分自身ではない別のモノに負わせたということになります。

それは不可能な解釈だというのが、この書の主張です。「ひれ伏せ」というのは神に対してしか有り得ません。御子は神です。また天使は「仕える者」ですが、御子には「神よ。あなたの王座は…」と言われます。その後の記述を読んでも、被造物などではなく、神ご自身であられることがわかります。

私たちは何と畏れ多い方を救い主として戴いていることでしょう。それを思えば、救いの感謝、イエス様への信頼、尊厳を感じつつ慕わしさが生まれてくることでしょう。

①神のみこころは？　②どんな思いになりましたか？　③生き方への適用は？　④実践は？

2日　土曜

ヘブル

2:1 こういうわけで、私たちは聞いたことを、ますますしっかりと心に留め、押し流されないようにしなければなりません。
2:2 御使いたちを通して語られたみことばに効力があり、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたのなら、
2:3 こんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、私たちはどうして処罰を逃れることができるでしょう。この救いは、初めに主によって語られ、それを聞いた人たちが確かなものとして私たちに示したものです。
2:4 そのうえ神も、しるしと不思議と様々な力あるわざにより、また、みこころにしたがって聖霊が分け与えてくださる賜物によって、救いを証ししてくださいました。
2:5 というのも、神は、私たちが語っている来たるべき世を、御使いたちに従わせたのではないからです。
2:6 ある箇所で、ある人がこう証ししています。「人とは何ものなのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたがこれを顧みてくださるとは。
2:7 あなたは、人を御使いよりもわずかの間低いものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせ、
2:8 万物を彼の足の下に置かれました。」神は、万物を人の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのを見てはいません。
2:9 ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見ています。

Bible Reference 聖書の記述

イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。

イエス様の大いなる権威を語った後に、「ですから」と信仰を堅くすることを勧めています。私たちはあらゆる困難や誘惑に対して信仰で勝利してゆく必要がありますが、それは御子であるイエス様をどう理解しているかにかかっているのです。イエス様の主権を認めつつ、感謝して愛する者は信仰が揺らぐことがありません。
「こんなにすばらしい救いをないがしろにしたばあい、どうしてのがれることができましょう。」とありますが、私たちは「ないがしろにせず」受け入れることができました。それは聖霊によることですから、本当に感謝しなくてはいけません。また他の人の救いのためにも、「ないがしろ」にならないために、真心から伝えるべきです。
神様は伝道の栄誉ある働きと、千年王国の支配権を天使ではなく、クリスチャンにお与えになりました。不思議なことですが、それは驚くべき栄誉なのです。
死に至ったイエス様を思いながら、そして「万物をその足の下に従わせられました。」という権威あるイエス様を思いながら、主の誉れある人生を全うしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

3日　日曜

ヘブル

2:10 多くの子たちを栄光に導くために、彼らの救いの創始者を多くの苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の存在の目的であり、また原因でもある神に、ふさわしいことであったのです。
2:11 聖とする方も、聖とされる者たちも、みな一人の方から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせずに、こう言われます。
2:12 「わたしは、あなたの御名を兄弟たちに語り告げ、会衆の中であなたを賛美しよう。」
2:13 また、「わたしはこの方に信頼を置く」と言い、さらに、「見よ。わたしと、神がわたしに下さった子たち」と言われます。
2:14 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、
2:15 死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。
2:16 当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださるのです。
2:17 したがって、神に関わる事柄について、あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりませんでした。それで民の罪の宥めがなされたのです。
2:18 イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです。

Bible Reference 聖書の記述

御子が肉体をお取りになったことの意味が語られています。神は「（人間のための）救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされ」ました。すなわちイエス様は苦しみによって救いの創始者となられたのです。苦しみがふさわしいとは何と謙った神様の思いでしょうか。

11節からは御父と御子とが区別しがたいほどに一体で表されていることがわかります。まさに御子は神なのです。

その神が判断なさったことは、「子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。」というように、人となることでした。それがなければ私たちは「 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた」ものなのです。

まさにイエス様は大祭司として、人間の側に立ってとりなし、自らをそなえものとして罪の赦しを成し遂げてくださったのです。そのために「試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになる」というのですから、何と感謝で何と驚くべきことでしょうか。これまで信じきれていないなら、従いきれていないなら、もう一度イエス様のことを思って、新たな心にしていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？